

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第7部門第3区分
 【発行日】平成17年4月7日(2005.4.7)

【公開番号】特開2004-32110(P2004-32110A)
 【公開日】平成16年1月29日(2004.1.29)
 【年通号数】公開・登録公報2004-004
 【出願番号】特願2002-182020(P2002-182020)
 【国際特許分類第7版】

H O 4 N	7/173	
H O 4 H	7/00	
H O 4 N	5/38	
H O 4 N	5/44	
H O 4 N	5/445	
H O 4 N	7/08	
H O 4 N	7/081	
H O 4 N	17/00	
// H O 4 H	1/00	
【F I】		
H O 4 N	7/173	6 4 0 Z
H O 4 H	7/00	
H O 4 N	5/38	
H O 4 N	5/44	Z
H O 4 N	5/445	Z
H O 4 N	17/00	Z
H O 4 N	7/08	Z
H O 4 H	1/00	N

【手続補正書】
 【提出日】平成16年4月27日(2004.4.27)
 【手続補正1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項1】

映像信号及び／又は音声信号とされる第1のコンテンツを作成する第1の作成手段と、
上記第1のコンテンツに対応するものとされ、グラフィカルユーザインターフェイスを
出力させるためのスクリプトを有して形成され、上記スクリプトとして、ユーザによる上
記第1のコンテンツに関連した受信装置の利用結果に応じて、所定内容の利用履歴情報を
生成する処理と、この利用履歴情報に基づいて、ユーザインターフェイス画像に対する操
作を伴って提供されるべきサービスが変化するように、上記グラフィカルユーザインター
フェイスを変更する処理とを、受信装置に実行させる記述を含む、第2のコンテンツを作
成する第2の作成手段と、

上記第1の作成手段により作成された第1のコンテンツと共に、上記第2の作成手段に
より作成された第2のコンテンツを放送として送信出力する送出手段と、
を備えることを特徴とする送信装置。

【請求項2】

上記第1のコンテンツは圧縮符号化されて送信されることを特徴とする請求項1に記載の

送信装置。

【請求項 3】

上記第 2 のコンテンツはデータ放送として送信されることを特徴とする請求項 1 に記載の送信装置。

【請求項 4】

放送として送信される映像信号及び／又は音声信号による第 1 のコンテンツと、上記第 1 のコンテンツに対応するものとされ、グラフィカルユーザインターフェイスを出力させるためのスクリプトを有して形成され、上記スクリプトとして、ユーザによる上記第 1 のコンテンツに関連した受信装置の利用結果に応じて、所定内容の利用履歴情報を生成する処理と、この利用履歴情報に基づいて、ユーザインターフェイス画像に対する操作を伴って提供されるべきサービスが変化するように、上記グラフィカルユーザインターフェイスを変更する処理とを、受信装置に実行させる記述を含む、第 2 のコンテンツとを受信することのできる受信手段と、

上記受信手段により受信した第 2 のコンテンツのスクリプトに従って、上記第 1 のコンテンツとしての映像と共に出力すべき上記グラフィカルユーザインターフェイスを形成するものとされ、上記スクリプトの記述に従って、ユーザによる受信装置の利用結果に応じて上記利用履歴情報を作成して記憶保持し、この利用履歴情報に基づいて、ユーザインターフェイス画像に対する操作を伴って提供されるべきサービスが変化するように、上記グラフィカルユーザインターフェイスを変更する処理を実行することのできるユーザインターフェイス形成手段と、

を備えていることを特徴とする受信装置。

【請求項 5】

上記第 1 のコンテンツは圧縮符号化されて送信されてくることを特徴とする請求項 4 に記載の受信装置。

【請求項 6】

上記第 2 のコンテンツはデータ放送として送信されてくることを特徴とする請求項 4 に記載の受信装置。

【請求項 7】

上記ユーザインターフェイス画像に対してユーザは各種操作を行うことができる、ことを特徴とする請求項 4 に記載の受信装置。

【請求項 8】

上記第 1 のコンテンツを利用しながら気に入ったものについてマーク操作を行い、当該マーク操作に応じて上記グラフィカルユーザインターフェイスが変化する、ことを特徴とする請求項 4 に記載の受信装置。

【請求項 9】

上記第 1 のコンテンツの視聴状況の履歴に基づき、上記グラフィカルユーザインターフェイスが変化する、ことを特徴とする請求項 4 に記載の受信装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

そして、このようなコンテンツの作成のために、例えば、特定のレコード会社 109、商品販売会社 107、及びコンサートチケット販売会社 108 と提携しているものとされる。なお、レコード会社 109、商品販売会社 107、及びコンサートチケット販売会社 108 など、提携する各社は、それぞれ複数が存在してもよいものである。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 5

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0 0 1 5】

このようにして、地上局 1 0 1 から送出された信号は衛星 1 0 2 を介して各家庭の受信設備 1 0 3 で受信される。

各家庭の受信設備 1 0 3 としては、パラボラアンテナ 1 4 とデジタル衛星放送受信機 1 と、モニタ装置 2 0 とが用意される。

また、この場合には、デジタル衛星放送受信機 1 に対して操作を行うためのリモートコントローラ 1 3 が示されている。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 6

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0 0 1 6】

衛星 1 0 2 を介して放送されてきた信号は、パラボラアンテナ 1 4 により受信される。この受信信号がパラボラアンテナ 1 4 に取り付けられた L N B (Low Noise Block Down Converter) で所定の周波数に変換され、デジタル衛星放送受信機 1 に供給される。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 8

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0 0 1 8】

デジタル衛星放送受信機 1 は、例えば電話回線 1 0 4 を介して課金サーバ 1 0 5 と通信可能とされている。デジタル衛星放送受信機 1 には、例えば楽曲のオーディオデータのダウンロードが行われたとすると、これに関する履歴情報がデジタル衛星放送受信機 1 側で記憶される。この記憶情報は、電話回線 1 0 4 を介して所定の機会、タイミングで課金サーバ 1 0 5 に送られる。課金サーバ 1 0 5 は、この送られてきた履歴情報に従って金額を設定して課金を行い、ユーザに請求する。

また、電話回線 1 0 4 を介しては、所定のサービスサーバ 1 1 0 とも接続される。これにより、例えばデジタル衛星放送受信機 1 側で表示出力させている G U I 画面に対する操作などに応じてサービスサーバ 1 1 0 と接続し、このサービスサーバ 1 1 0 が提供するサービスを楽しむことができる。なお、サービスサーバとしても、必要に応じて複数と接続されるようにすればよい。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 3 1

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0 0 3 1】

また、データ放送が、本実施の形態としての G U I コンテンツのようにして、B M L コンテンツである場合には、この B M L コンテンツを次のようにして再生出力する。

本実施の形態のシステムコントローラ 9 は、R O M 1 1 に格納されるプログラムにより、図示するようにして、B M L デコーダ 9 a としての機能を備える。そして、データ放送データ生成部 7 にて生成されたデータ放送用データが B M L コンテンツであった場合には、システムコントローラ 9 がメモリ 8 から、この B M L コンテンツとして記述されているスクリプトの読み込みを行い、B M L デコーダ 9 a によりスクリプトの記述内容を解釈する。そして、スクリプトとしての記述に従って、例えばビデオ／オーディオ信号処理部 6

をコントロールすることができる。

ビデオ／オーディオ信号処理部 6 では、システムコントローラ 9 に依るコントロールに従って、例えばメモリ 8 に BML コンテンツとして保持されているテキスト（文書）やボタンなどのエンティティ（オブジェクト）を使用して、GUI 画像を作成する。そして、この GUI 画像をビデオ信号として出力するようにされる。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0034

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0034】

3. コンテンツ画像表示及び操作例

上記図 3 に示した構成のデジタル衛星放送受信機 1 では、先に図 1 に示したコンテンツ作成システム 106 により作成されたプロモーションビデオの映像／音声コンテンツ及び GUI コンテンツから成る番組（以降、PV (Promotion Video) コンテンツともいう）を受信した場合には、このコンテンツとしての画像及び音声を出力させることになる。

そして、先も述べたように、本実施の形態の PV コンテンツは、プロモーションビデオとしての映像／音声コンテンツを、GUI 画像に組み込むようにして表示される。そして、ユーザは、この GUI 画像に対して各種の操作を行うことができるようになっている。

そこで、続いては、この本実施の形態としての PV コンテンツの GUI 画像の表示態様例と、この GUI 画像に対する操作例について説明を行っていくこととする。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0060

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0060】

そして、先にも述べたように、図 8 の商品選択画面 300 における「次へ」ボタン 310 を操作した場合には、図 9 に示すユーザ選択画面 350 が表示される。

この図 9 に示すユーザ選択画面 350 においては、ウィンドウ内にユーザボタン 351 が表示される。このユーザボタン 351 は、既に個人情報登録されているユーザについての氏名が表示されている。このユーザボタン 351 を操作することによりショッピングなどのサービスを利用するユーザを選択するようにされる。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0105

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0105】

ステップ S402 の処理においては、上記ステップ S401 の処理に対応して表示開始されたプロモーションビデオ（楽曲）が、終了したか否かについての判別を行っている。

そして、プロモーションビデオ（楽曲）が終了していない場合には、ステップ S403 において、他の画面に移行したか否かが判別される。ここでの他の画面とは、例えば他のチャンネルへの切り換えが行われた場合が含まれる。また、同一チャンネルであっても、他の所定の GUI 画面などに移行したことなどにより、例えばプロモーションビデオを通して見たとは扱われなくなった場合も含まれる。

ステップ S402 において肯定結果が得られた場合には、この図に示す処理は終了して他の所要の処理ルーチンに移行する。これに対して、他の画面への切り換えがない場合に

は、ステップ S 4 0 2 の処理に戻るようになされる。

【手続補正 1 0】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 0 6】

従って、ステップ S 4 0 2 では、途中で他の画面に移行することなく、現在放送中のプロモーションビデオが最初から最後まで表示出力されていたとされる場合に肯定結果が得られることになる。このようにして肯定結果が得られるとステップ S 4 0 4 に進む。ここで肯定結果が得られたということは、ユーザが現在放送中のプロモーションビデオを通して視聴したということに相当する。

【手続補正 1 1】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 3】

